

29生産第557号
平成29年6月2日

各行政機関の長 殿
各団体の長 殿

農林水産省生産局技術普及課長

農作業中の熱中症対策について

農作業中の熱中症による死亡事故は、毎年20件前後で推移し、7、8月に70～80代の方が屋外作業を行うときに集中して発生しています。

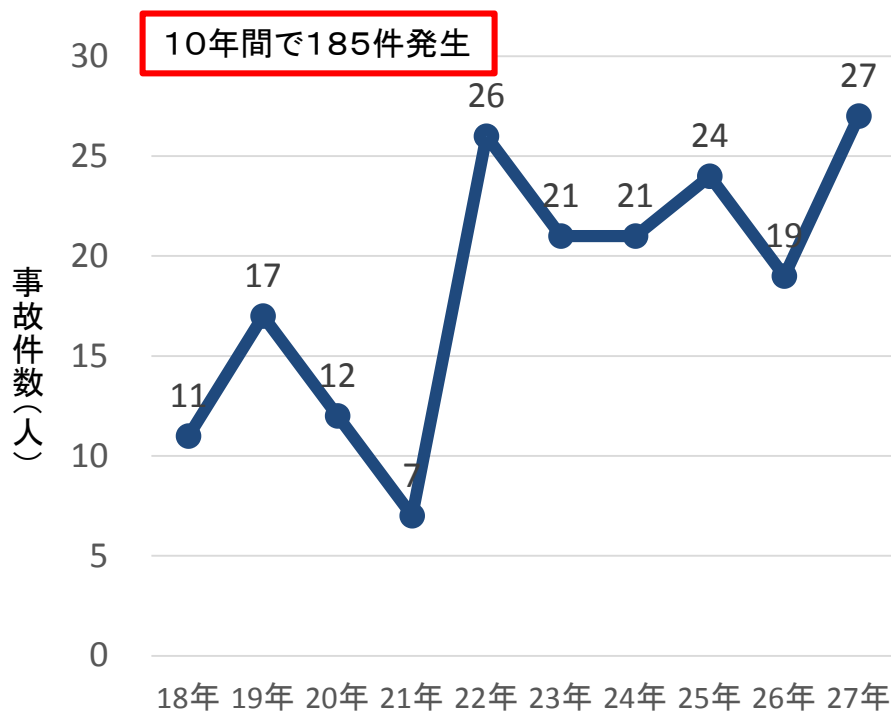
また、気象庁の発表によると、3ヶ月予報（6～8月）では全国的に平均気温が高いとされており、既に5月の真夏日においても近年で大変多い状況であるため、今夏の暑熱環境下での農作業は特に注意が必要です。

農業従事者の中には熱中症の具体的な症状がわからず、知らず知らずに熱中症にかかっている方が多くいます。特に高齢農業従事者は発汗量が多く脱水しやすいため、こまめな水分補給や休憩を周囲の方が協力して声かけを行う等、重点的な対策が必要です。

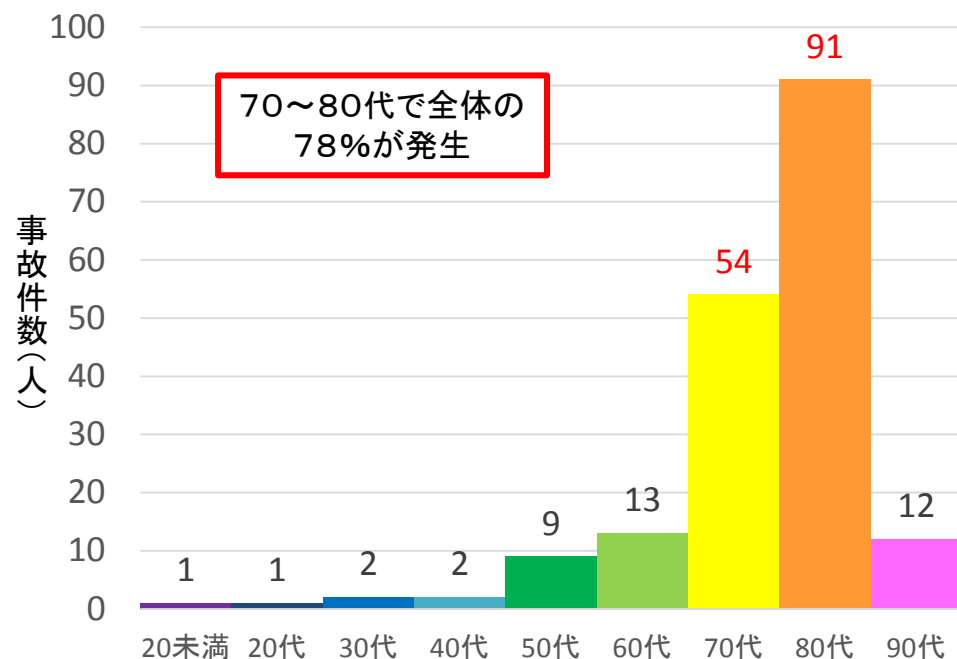
つきましては、熱中症の発生が急増する時期を迎えるにあたり、農作業を行う者等に対し、あらゆる機会を利用して幅広く別紙の内容を周知し、熱中症予防に取り組んでいただくようお願いします。また、このことが取り組まれるよう貴関係者に対して指導願います。

農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況①

農作業中の熱中症による死亡事故件数の推移

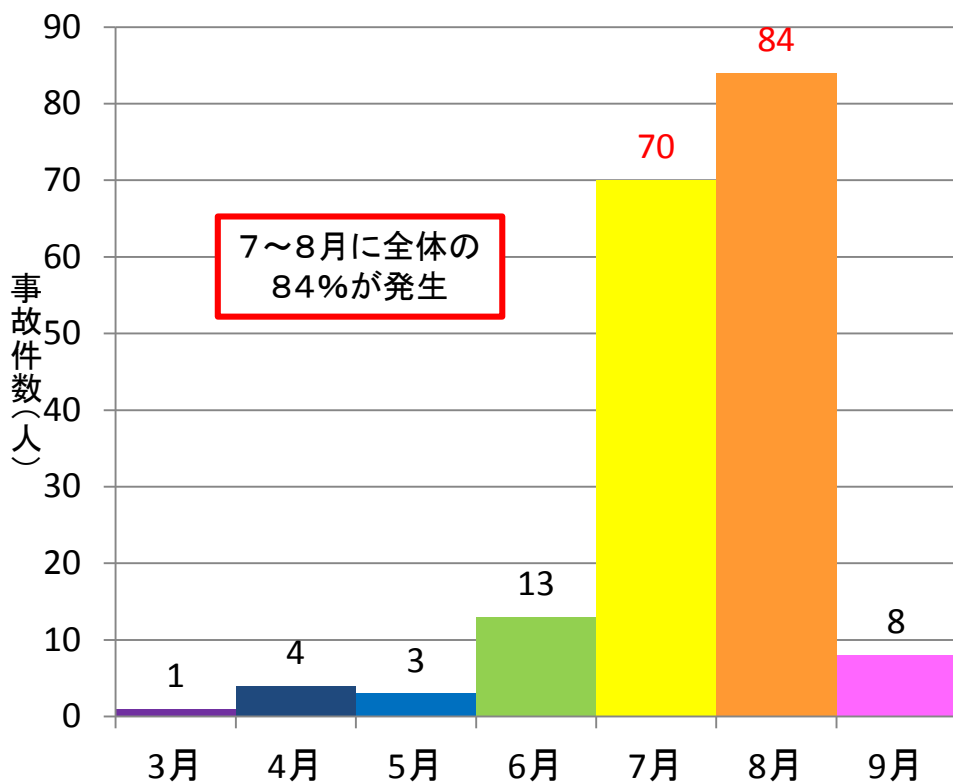


農作業中の熱中症による死亡事故件数、年齢別
(平成18～27年)

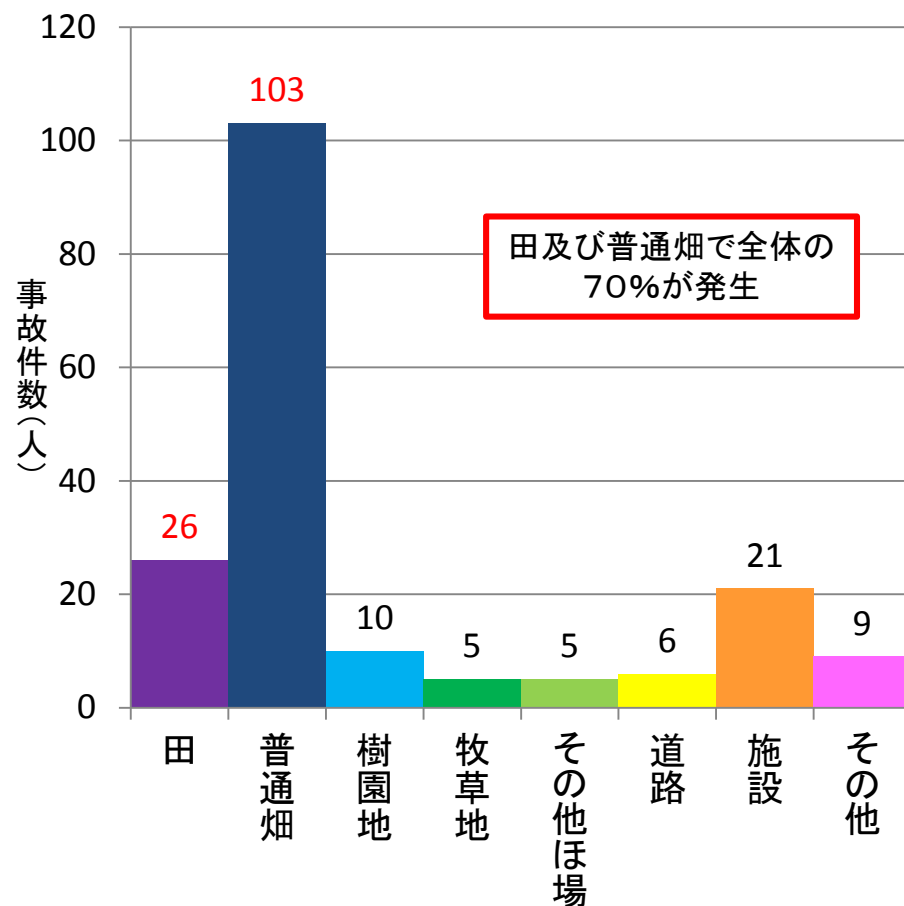


農作業中の熱中症による死亡事故の発生状況②

農作業中の熱中症による死亡事故件数、月別
(平成18～27年)



農作業中の熱中症による死亡事故件数、場所別
(平成18～27年)

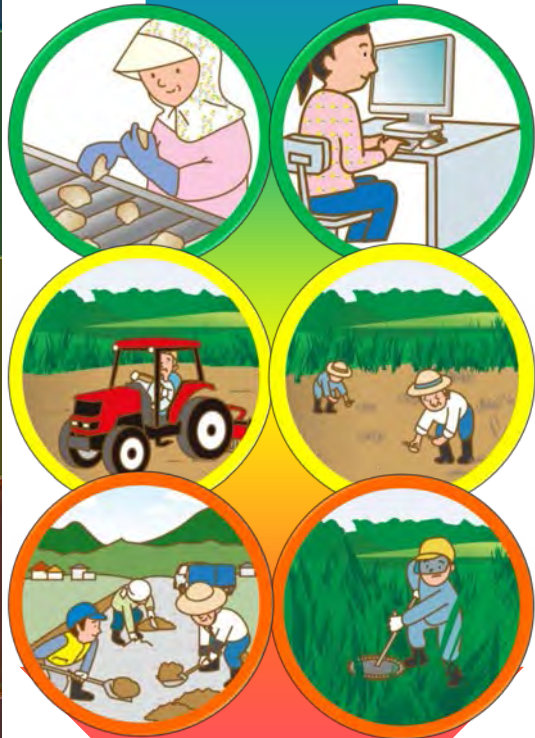


※発生月が不明な事故が2件あるため、総数は他のグラフと異なっている

農作業における身体作業強度と熱中症のリスクについて

身体作業強度	作業の例
安静	安静
軽作業	楽な座位、立位、軽い手作業(書く、簿記など) 手及び腕の作業(点検、組み立てや軽い材料の区分け) 腕と足の作業(普通の状態での乗り物の運転、足のスイッチやペダルの操作)
中程度の作業	トラクターや重機の操作、草むしり、果物や野菜を摘む 軽量の荷車や手押し車を押したり引いたりする
激しい作業	シャベルを使う、草刈り、掘る、のこぎりをひく 重い荷物の荷車や手押し車を押したり引いたりする
極めて激しい作業	激しくシャベルを使ったり掘ったりする、斧をふるう、 階段を登る、走る

熱中症リスク 低



熱中症リスク 高

夏の農作業で気をつけること

① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- 特に70歳以上の方は、高温時の作業は極力避けましょう
- 日中のシャベルを使った作業や草刈りは避けましょう

② こまめな休憩、水分補給を行いましょう

- のどが乾いていなくても
20分おきに休憩し、
毎回コップ1～2杯をめやすに
水分補給しましょう
- 足がつったり、
筋肉がピクピクする症状が
みられたら、
0.1～0.2%程度の食塩水
(1Lの水に1-2gの食塩)か
スポーツ飲料を飲みましょう
- 休憩時は作業着を脱ぎ、
手足を露出して体温を下げましょう
- 木陰などの涼しい休憩場所を
必ず確保しておきましょう

③ 熱中症予防グッズを活用しましょう

- 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の
衣服やファン付きの作業着、
屋内では送風機やスポットクーラー
などを活用しましょう

④ 単独作業を避けましょう

- 作業は2人以上で行うか、時間を決めてお茶を運び合うなど、定期的に異常がないか
確認し合うようにしましょう

⑤ 高温多湿の環境を避けましょう

- 作業場所には、日よけを設ける等、できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
- ハウス等の施設内では、断熱材を使用したり、風通しを良くするなどして気温や湿度が
高くなりすぎないようにしましょう

何を、いつ、どのくらい飲むの？

市販のペットボトル(500ml)の
飲料を購入する場合は
成分表示をチェック



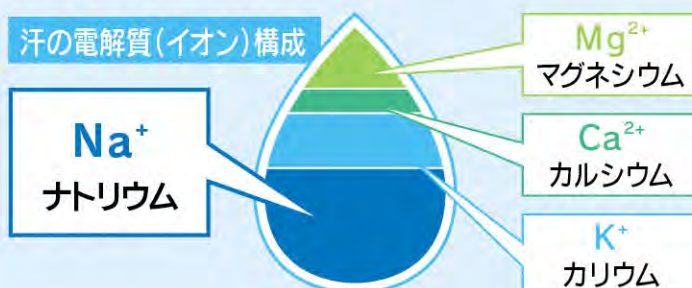
水分補給に適した
食塩相当量
0.1～0.2g
(100ml中)

もしくは

水分補給に適した
ナトリウム量
40～80mg
(100ml中)

汗にはナトリウム等の電解質(イオン)が絶妙な
バランスで含まれています。汗で失った水分を補給
する時は、水分だけでなく電解質(イオン)も一緒
にとるようにしましょう。

汗の電解質(イオン)構成



熱中症が疑われる場合の処置

1 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断しましょう

- 代表的な症状は以下のとおりですが、熱中症には特徴的な症状がなく、「暑い環境での体調不良」は全て熱中症の可能性あります



2 応急処置を行いましょう

- 涼しい環境へ避難しましょう
- 服をゆるめて風通しをよくしましょう
- 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう
- 水分・塩分を補給しましょう



3 病院で手当を受けましょう

- 意識がない場合、自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても症状がよくなる場合は、すぐに病院で手当を受けるようにして下さい

参考情報

- 熱中症対策を含む農作業安全対策全般について ◆ 農林水産省ホームページ「農作業安全対策」
http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/index.html#necchuushou
- 熱中症予防グッズについて ◆ 全国農業機械商業組合連合会ホームページ「おしゃれな農作業ウェア」
<http://www.zennouki.org/ware.html>
- 熱中症全般について ◆ 環境省ホームページ「熱中症予防情報サイト」
<http://www.wbgt.env.go.jp/>
- 農業法人等で雇った人の熱中症予防や地域の高齢者等に対する熱中症対策の事例等について ◆ 厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/
- 気温に関する予測情報などについて ◆ 気象庁ホームページ「熱中症から身を守るために」
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kurashi/netsu.html>
- 熱中症による救急搬送などについて ◆ 消防庁ホームページ「熱中症情報」
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

1 暑くなる前に、熱中症に負けない体作りをしておきましょう

- 暑さに慣れるため、毎日30分くらい歩く習慣をつけましょう
- 暑さに強くなる食べ物を積極的にとりましょう
(ビタミンB1を含む豚肉や卵、カリウムを含むほうれん草やバナナ、クエン酸を含む梅干しやパイナップルなどが効果的です)

2 暑くなってきたら、日々の体調管理に一段と気をつけるようにしましょう

- 高血圧症・糖尿病等の持病や、睡眠不足・前日の飲酒・朝食の未摂取等は熱中症の発生に影響を与えます



朝食は作業前に
欠かさず食べましょう



睡眠はしっかり
とりましょう



お酒はほどほどにしましょう
(気づかないうちに脱水します)



持病がある場合や体調不良のときは
翌日の作業内容の変更などを検討しましょう